

2017年度 SciREXセンター インターンの声

2018年4月

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策研究センター

(SciREXセンター)



梶原裕太さん

(九州大学大学院工学府
エネルギー量子工学専攻)

担当プロジェクト：
政策形成のフレーミング、
ステークホルダー分析、
プロセスの構築を通じた
政策形成プロセスの改善
手法の開発

近年の厳しい財政状況において、エビデンスに基づいたSTI政策の重要性がさらに増すと考え、より実践的なフェーズで学びたいという思いで今回参加させていただきました。政策形成プロセス実践領域では、国や地方自治体など様々な政策実務者へのインタビューを実施し、現在の公務員のエビデンスに対する認識とEvidence Based Policy Making (EBPM)の現状について調査しました。現場の声を直接聞くことで、政策形成プロセスにおける困難を肌で感じることができました。

この約2週間は、行政官や研究者をはじめとする様々な政策のステークホルダーに関わりながら、政策の現場につながる学びができた大変貴重な経験になりました。



堀本保さん

(九州大学大学院
経済システム専攻)

担当プロジェクト：
政策形成のフレーミング、
ステークホルダー分析、
プロセスの構築を通じた
政策形成プロセスの改善
手法の開発

SciREXセンターのインターンでは森川想先生のご指導の下、政策形成に必要なエビデンスの収集とエビデンスのビッグデータの構築に取り組みました。

私はCSTIPS（九州大学）にて政策関連の講義を受講し、政策形成の実務の現場ではどのような発想や苦悩があるのかということを経験したいと思いインターンへご応募致しました。

私が参加をしましたプロジェクトの特徴は、多様性のある国民・企業等に対し、どのような政策を講じることがよいのかという多様な視点から考察する点、各省庁インタビュー等によるエビデンスの活用や合意形成といった状況を体験ができる点にありました。

私は9日間のインターンでしたが、中身の濃い充実した毎日でした。このような機会はあまりないと思いますので、多くの学生に体験して頂き、政策形成に関心を持って頂きたいと感じました。



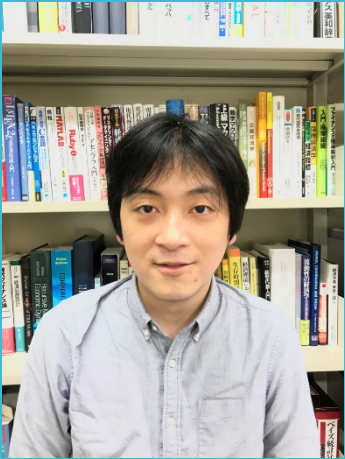
細川千馬さん
(東京大学法学部一類)

担当プロジェクト：
政策形成のフレーミング、ステークホルダー分析、プロセスの構築を通じた政策形成プロセスの改善手法の開発

私はSciREXセンターにて世論調査・報告書作成に関わりながら、様々な立場の方と接する機会を持つことが出来ました。

インターン応募時に持っていた「科学技術と行政」に関する問題意識に対し自分なりの答えを見いだせた一方、終了時にはそれ以上に新たな問題意識を抱えることになりました。研究活動の成果・生産性に関するより多面的なエビデンスが欲しい、産学官が協働する場に基礎研究者の声が十分に吸い上げられていない、協働の方法論についての議論が未成熟、など挙げればきりがありません。将来的にはまた腰を据えて追究する機会を持ちたいと思っています。

ここでは多様なプロジェクトが行われており、自分の意識次第で充実した経験・スキルを得ることができると思います。



山口 晃さん

(一橋大学大学院経済学研究科)

担当プロジェクト：
経済社会的効果測定
指標の開発

私はScirexのサマーキャンプで発表した内容が、思いのほか受けがよく（最優秀賞を受賞しました）、このままではもったいないというところからインターンをさせていただきました。内容は「博士号取得時の年齢とその後の科学的生産性」という内

容でした。普段学校では使えないようなデータベースを使い、研究を行い、ワーキングペーパーの執筆にまで至りました。共同研究という普段とは違うスタイルで研究を行うことができ、大変貴重な経験になりました。



西條 圭祐さん
(東京大学工学部社会
基盤学科(3年))

担当プロジェクト：
科学技術イノベー
ションと社会に関する測定

私は、「科学技術イノベーションと社会に関する測定プロジェクト」に携わらせていただきました。科学の急激な発展とともに社会と科学が密接に関わってくる中で、両者の関係を測れる指標をつくらうというプロジェクトです。科学と社会の望ましい関係を明らかにするところから始まり、その実現のために各アクターが何を行うべきかを考察しました。

インターン期間中は、サイエンスアゴラというイベントにワークショップを出したり、プロジェクトを紹介するウェブサービスを立ち上げようとしたりと、研究コミュニティ内だけでなく、なるべく広くたくさんの方にプロジェクトの内容と重要性を知ってもらえるように努力しました。これらを通じて、様々なスキルが身についただけでなく、研究内容を社会に還元することの難しさを感じました。多くの試行錯誤を伴ったとてもやりがいのあったインターンシップでした。